

第 2 回（仮称）くろべ市民交流センター管理運営計画策定委員会会議録

日 時 平成 3 0 年 5 月 1 5 日（火）午後 2 時 0 0 分～
場 所 黒部市民会館 1 0 1 会議室

会議次第

- 1 開 会
- 2 委員長挨拶
- 3 報告事項
- 4 協議事項
 - (1) 管理運営計画（提案事項）について
 - (2) その他
- 5 閉 会

本日の出席委員 13名

藤 田 公仁子（富山大学地域連携推進機構）
堀 内 國 春（富山県図書館協会）
上 田 洋 一（黒部市図書館を愛する会）
橋 爪 みち子（黒部市合同読書会）
石 川 幹 夫（黒部市公民館連絡協議会）
長谷川 悦 子（子育て支援活動実践者）
河 田 稔（黒部市自治振興会連絡協議会）
牧 野 和 子（くろべ女性団体連絡協議会）
中 野 高 嗣（黒部商工会議所）
菅 野 智 美（黒部ワインコインプロジェクト実行委員会）
新 酒 さおり（公募委員）
能 澤 雄 二（黒部市副市長）
国 香 正 稔（黒部市教育長）

本日の欠席委員（1名）

中 尾 晃 司（公募委員）

事務局

【教育委員会事務局】

- 長 田 行 正（黒部市教育委員会事務局教育部長）
- 島 崎 豊（黒部市教育委員会事務局生涯学習課長）
- 川 端 左起子（黒部市立図書館長）
- 中 嶋 ひとみ（黒部市立図書館主幹・館長補佐）
- 興 水 一 紀（黒部市教育委員会事務局生涯学習課主幹・生涯学習施設建設推進班長補佐）
- 宮 崎 千 夏（黒部市生涯学習施設建設推進班係長）
- 内 山 香 織（黒部市立図書館主査）

【関係部局】

- 御 囲 泰晃（黒部市総務企画部長）
- 藤 田 信幸（黒部市こども支援課長）
- 高 野 正規（黒部市商工観光課長補佐）

【管理運営計画策定支援業務委託業者】

- 岡 本 真（アカデミック・リソース・ガイド株式会社）
- 鎌 倉 幸 子（アカデミック・リソース・ガイド株式会社）

.....

開 会

○事務局 ご案内の時間となりましたので、ただ今から「第1回（仮称）くろべ市民交流センター管理運営計画策定委員会」を開会させていただきます。

私は、黒部市教育委員会事務局生涯学習課長の島崎でございます。本日の進行を務めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

会議の開催にあたり、（仮称）くろべ市民交流センター管理運営計画策定委員会藤田委員長よりご挨拶をいただきたいと存じます。よろしくお願いいたします。

.....

委員長挨拶

○委員長 皆様、本当にお忙しいところお集まりいただきまして、ありがとうございます。今回は、第2回目ということで、黒部市らしい若い意見がどうなったのかということワークショップの部分で、それから管理運営計画という根本的な幹の部分と、その幹の部分からどのように枝葉が出ていくのかという、そもそも論についてもご提案があるということです。そうした部分について、ご協議いただければと思います。限られた時間になりますが、ご協力のほどお願いいたします。

それから、なるべく具体的な形でお話していければと考えております。より良いものができるということを願いつつ、期待しつつ、進めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

.....

報告事項

○事務局 どうもありがとうございました。委員長には、引き続き議事の進行をお願いいたします。

○委員長 それでは、次第2「報告事項」について、事務局から説明をお願いします。

○事務局 資料1をご覧ください。第1回委員会の議事録です。

既に委員の皆様には、ご発言頂きました箇所等につきましても確認いただき、訂正を行ったものです。事前に配布済みでありますのでご覧いただいていると思います。ここでのご説明は、省略させていただきます。

なお、空席となっております本策定委員会アドバイザーにつきましても、松本大学教授の伊東直登様にご了解をいただき、5月1日付で就任いただきました。伊東先生は元塩尻市職員で、塩尻市市民交流センターの設立運営に携わり、図書館長も務められておりました。図書館の運営には大変精通されておられます。本日の次第裏面にあります委員会名簿の中に記載させていただきましたのでご確認ください。

また、後ほどご説明いたしますが、「6月3日 先進地視察」において塩尻市市民交流センターを伊東先生にご案内いただくことになっております。資料2をご覧ください。3月26日開催された「アンダー18ワークショップ」の概要報告です。

まず、1ページをご覧ください。桜井高校生を対象にしたワークショップを、市役所交流サロンにて、午後1時半から約2時間開催いたしました。参加者は生徒15名および引率の先生1名でした。

続いて、2ページをご覧ください。初めに各自、自己紹介を行った後、2つのグループに分かれ、高校生たちの放課後や週末どこで時間を過ごしているのか、「家でもない、学校でもない居場所」として、①家や学校以外で1人で過ごす場所②家以外で家族と過ごす場所③家や学校以外で友達と過ごす場所④家や学校以外で友達と勉強する場所について地図を活用しながら話し合ってもらいました。

その結果は、概要報告の2ページ以降に記載してありますので、またご覧いただきたいと思えます。

続いて、4ページをご覧ください。4ページに記載の各グループの発表では、グループで特に議論となった場所とその理由については、いろいろ意見がありました。

- ・電車を待っている間、時間をつぶす場所
- ・イベント時のコラーレや民間商業施設等では、うるさくて勉強に集中できない
- ・カフェがあるのでそこで勉強している
- ・飲食スペースがあるコンビニなどで勉強することもあるがお金がかかる

など居場所として費用の負担が少なく、勉強する場所を求めていることが分かります。

5ページではまとめとして、生徒達は、建設予定地である旧庁舎周辺で勉強場所や電車の待ち時間等を有意義に過ごす場所を求めている傾向があることが分かり、この場所に交流センターがあれば利用する可能性が高いことが伺えます。ただし、にぎやかに友達と交流できるスペースや静かに勉強できるスペースどちらも求めているので、ゾーニングのあり方が今後の課題となります。

「アンダー18ワークショップ」次回は7月31日開催予定です。

資料1・資料2についての説明は以上です。

○事務局 資料3をご覧ください。ワークショップ概要についてご説明いたします。

ワークショップは、策定委員会の下部組織として、策定委員会に提出する素案について事前に調整を行うために設置されており、各種団体、各分野の15名のワークショップメンバーにより構成されております。

ワークショップは、市民ひとりひとりが施設づくりやまちの運営に主体的に参画し、議論を積み上げていく場であり、地域全体の課題を見つけ出し、創造的な解決策を生み出し、合意形成につなげていくものであります。

資料3の最終ページをご覧ください。スライド23、24は、ワークショップ当日の様子でございます。

第1回、第2回ワークショップは、いずれも4月24日（火）、市役所において開催いたしました。15名のワークショップメンバーの皆様には、第1回の昼の部と第2回の夜の部に分かれてご参加いただき、昼の部は中尾副委員長を座長として10名、第2回の夜の部は上田副委員長を座長として5名の皆様でご議論いただきました。

ワークショップの議論を始める前には、管理運営計画策定の土台となる「(仮称)くろべ市民交流センター建設基本構想」の重点ポイントということで、スライド17～19に記載のこれまでの経緯や(スライド20)ハードの前提条件について確認いたしました。また、「(仮称)くろべ市民交流センター管理運営計画」のメインコンセプトについても確認いたしました。

そのあとのディスカッションでは、策定委員会に提示する素案の「3事業運営方針」をもとに、施設全体の事業コンセプトや各施設の事業方針などについて、疑問点や改善点など意見を発表していただきました。

ワークショップメンバーの皆様には、事前に管理運営計画の素案を配布して、あらかじめ意見を用意してご参加いただいております。約2時間という限られた時間の中で、それぞれの立場から活発に議論していただき、貴重なご意見が出されたところであります。

議論の内容につきましては資料4でご説明いたします。ワークショップの概要については以上です。

○委員長今の報告にもありましたが、4月24日に開催されましたワークショップについて、上田副委員長と中尾副委員長に座長を務めていただきました。

また、15名のワークショップメンバーの皆様には、本日の協議事項について熱心にご議論いただきました。少しハードな時間帯だったと思いますが、中身の濃いワークショップだったとの報告だったと思います。

ありがとうございました。

ただ今の説明に対して何かご意見等はありませんか。

○副委員長私は夜の部の座長を務めました。昼のグループの方がたくさんのメンバーが参加されていて、私の方は夜の部だったせいにか5人と少なかったのですが、その分、参加者ひとりひとりが時間をとって活発に議論をしていただきました。私を感じたことを申し上げると、基本コンセプトのサードプレイスという言葉について初めて聞いたとみなさんは言っていましたが、その中身についても様々な受け止め方があると思えました。事務局からの説明について反対ということではありませんが、まだ議論をする時間が必要だと感じました。ただ、そこで言われていることについては、大事なことだという発言が多かったと思います。サードプレイスが今後もコンセプトとして進むのであれば、ワークショップのメンバーだけでなく市民全体にも丁寧な説明が必要だと感じました。

メンバーのなかでは、特に女性の参加者を中心に、子育て支援に対する関心や期待感が高かったです。図書館を核としてということと関係してくると思いますが、図書館がある子育て支援センターが、今後の私たちの議論のなかでも大事にしていくテーマだと思いま

した。

参加者には若い人が多く、若い人たちが交流センターでどのような活動を今後できるのかという期待感が多かったです。

ビジネス支援については、私自身、まだ具体的には分からないところがあるので、交流センターが取り組むビジネス支援というものをもう少し議論が必要だと思いました。

市民のさまざまな年代層、各分野のみなさんが交流センターで活動を展開することによって、地域の可能性を生み出していけるという期待感を、みなさん感じていると思いました。

○委員長ありがとうございました。子育てとビジネス支援という今後取り組むべきテーマに、期待感を持っているということなので、これからも話ができればと考えております。

○事務局ご意見ありがとうございました。事業内容について、前回のワークショップではビジネス支援に関するものも何点か出ています。今回のコンセプトについては、事業内容までは表現しきれていない部分もあります。これについては、4章以降の事業計画で議論する場面がありますので、そちらで素案を提案しながら集中的に議論を進めていきたいと思っております。

○委員長ありがとうございました。ワークショップという新しい試みなので、実際に参加しているのと報告を聞いているのでは距離感を感じますが、こうした報告のなかからキーワードが出てきていると感じています。

それでは、次に進めさせていただいてよろしいでしょうか。

【追加の発言がないことを確認】

.....

協議事項（１）管理運営計画（提案事項）について

○委員長特にないようですので、次第3「協議事項」に進めていきます。まず、「（１）管理運営計画（提案事項）について」、事務局から説明をお願いします。

○事務局資料4-1から4-3について説明いたします。

まず「資料4-1」をご覧ください。『（仮称）くろべ市民交流センター施設管理運営計画』検討項目についてですが、本日の委員会では「第3章 事業運営方針」まで審議いただく予定となっております。

このうち、「0 はじめに」から「2 管理運営方針」までは「区分B」とし、議会議決を受けました「基本構想」を基に記載をさせていただいております。まずこの部分について、「資料4-2」で説明いたしますので、次の資料4-2をご覧ください。

「資料4-2」では、最終的な報告書の様式で素案を提示しております。今年度末に最終的には冊子形を作っていく作業となります。1ページの“まえがき”については、計画経緯等を記載しておりますが、本計画策定終了時の総括文章となることから7回に及ぶ委員会終了時に加除修正し、改めて検討することといたします。

続いて2ページ目から、第1章ですが、ここでは、上位の計画であります「（仮称）くろべ市民交流センター建設基本構想」の基本コンセプトを確認することで、今回の管理運営計画の前提条件を整理しております。

「1-1 設置目的の確認」では、これまで行われてきた（仮称）くろべ市民交流センターに関する各種検討や公共施設の再編に関する課題について整理し、設置目的について明らかにしております。

続いての3ページ目からは、H22年の図書館建設基本構想から始まる公共施設の再編に関する経緯を表として整理し示しています。

4ページ目の「1-2 基本コンセプトの確認」では、現在、私たちが取り組んでいます「管理運営計画」策定の議論に生かしていくため、上位計画であります「(仮称)くろべ市民交流センター建設基本構想」の基本コンセプトについても併せて確認するものがあります。5つの基本機能について、もう一度、ここで整理するものです。

続いて「第2章 管理運営方針」についてですが、5ページをご覧ください。

現在取り組んでいます「管理運営計画」についての位置づけを体系図にしたものです。上位計画の「基本構想」のもと、現在、委員の皆様方に、新施設のソフト部分の検討組織として管理運営計画の策定に参画いただいているものです。

管理運営計画のメインコンセプトとして、前回の委員会で素案を提示させていただきました「わたしのサードプレイス」。管理運営方針としては、基本構想を踏まえ、

- ① 5機能融合と多様な人材交流による新しい文化と価値の創造
- ② 市民による新たな知的創造活動を生むための情報の収集と活用の促進
- ③ 効果的・効率的な管理運営

の3点を設定しております。

次の6ページの「2-1 管理運営計画の目的」は、第1回委員会で市長から本委員会に手交された「諮問書」の内容をそのまま記載しております。

「2-2 管理運営方針」は先ほどの体系図に出てきました3つの方針について説明をしております。

6ページの下の方からは、本計画の「メインコンセプトの提案」をしております。図書館を核とした5つの機能の融合により、市民の心の拠り所、黒部の新たな価値の創造の拠点とし、本計画のメインコンセプトとして「わたしのサードプレイス」として第3章に向けて提案をしており、議論については第3章に委ねております。

ここまでが資料4-2の説明でした。

一度、資料4-1にもどってください。次に「区分A」の部分になります「3 事業運営方針」についてご説明いたします。「区分A」の部分は本委員会の下部組織でありますワークショップでの議論を経て委員会にて確認いただく部分ですが、先ほどの報告事項で説明し、また座長として参加いただいた上田副委員長からもご報告いただきましたが、「第1回・第2回ワークショップ」で本委員会開催前に第3章の部分について議論いただきました。この結果については、資料4-3をご覧ください。ワークショップの議論につきましては右側に記載しております。この資料は全部で4ページですが、まず1ページ目メインコンセプトをご覧ください。メインコンセプトは前回第1回委員会において提案させていただき、いろんなご意見をいただいております。特にサードプレイスを含めてカタカナの使用の再議論についてのご指摘がありました。そこで4/24のワークショップでも議論いただいたところです。

資料4-3は調整方針の欄-ゴシック体の部分が確認した後に最終的に冊子になる部分、それ以外は前提条件や課題、ワークショップでの意見等であり、並べて見ていただくため、この表をつくっております。それでは、こちらの表について説明いたします。今回提案しております「わたしのサードプレイス」以下文言です。今後このサードプレイスという言葉を含めてこのあとご議論いただきたいと思っております。

ワークショップでは右側に記載したような意見が出ておりますので、若干補足して説明いたします。まず2番目ですが、「最初に違和感があったが、意外になじんでくる」。4

番目「わかりにくさもあるので、何らかの説明があると良いのではないか」。10番「コンセプトはどうであれ、施設が機能すれば問題ないといえる。いずれ実感されるはず」。14番「サードという言葉が悪い意味にとらえない方がいいのではないか」といった意見がありました。

“サードプレイス”つきましては、調整方針の中で①居心地のよい場所、②市民生活を豊かにする場所③自らの可能性に気づき、挑戦する舞台を探す場所、というように、目的としては良いという好意的な意見が多くありました。しかし、“サードプレイス”というひと言で表現するかどうか、上田副委員長もおっしゃっていたがなじむかどうかについては、最初に聞いた人には難しいのかなとこの意見からうかがえる。

少し違った角度からの意見としては3番、「順番をつけるというニュアンスに違和感がある」、11番「“サードプレイス”であると同時に、本来的には“ファーストプレイス”を目指すべきではないか」というご意見もいただいております。

また、8番「職場等とは別に同じ興味・関心の人々が集う場としての意味での納得感がある」。9番「“サードプレイス”という言葉はシティプロモーション（自治体のPR）上の有効性はある」12番「様々な使い方のなかで、私を見つける場所といえるのではないか」という意見をいただきました。

今後、第4章以降事業内容の検討において、事業の方向性を検討するにあたって必要のご意見であり、どういう事業にしていくかということで問題提起的な意見をいただいたところでもあります。

下のほう『サードプレイス』の日本語化の検討についてですが、日本語ではどのような表現があるか、少し事務局内で議論をしています。“サードプレイス”という言葉は急に素案としてあがってきたわけではなく、どういうコンセプトがこの施設に必要なかという中でそもそも今求められている現代社会の中で居場所だったり探求場所であったり駆け込み寺だったり、それぞれの人生のシュチュエーションでいろいろと必要とされるものが違うわけですが、そういった場所はなにかないだろうか議論をしていました。そのなかで、なかなか包括する言葉ないなかで“サードプレイス”という言葉を経験的には素案として提案したわけです。そういった意味で日本語化で要検討するなかでなかなか包括する言葉がなかったのでこの言葉を使わせていただいたという経緯がありました。しかし、“サードプレイス”という言葉ですぐに理解いただけないということがありまして、調整方針のなかで、若干修正を加えさせていただいております。

事前説明でも委員の皆様にもご説明しましたが、「家でも学校や会社でもない第3の居場所」とサブタイトルに文章ではなっていますが、前回までは「自分の居場所」となっていました。サードプレイスを説明する意味で「第3の居場所」という注釈的なサブタイトルを加えさせていただきます。

もう2点修正している場所があります。「家でも会社でも学校でもない」という箇所、ここはどちらもどちらも“セカンドプレイス”ですので「学校でも会社でもない」を「学校や会社でもない」と「や」でつないで修正しております。

③の方でも修正がございます。後ほどビジネス支援の方でも出てきますが、「就業」というところがあります。こちらは前回「就職・起業」としていましたが、そのほか現代では事業継承などいろんなご意見があり、包括して仕事という意味で「就業」という言葉にまとめさせていただきます。

以上3点が、第1回目の素案から変更させていただいた点でございます。

続いて2ページに移りまして、この3つについて調整方針の修正はございません。ワークショップの意見について説明させていただきます。まず一番上の図書館機能の議論であ

ります。ワークショップでは、1番核としての図書館のあり方についての問題提起などがありました。施設の異なる機能の「核」になりうるのか、「核」というのは「束ねる」という意味ですが、そこをしっかりと問う必要があるというご意見がございました。こちらは今後の第4章以降の議論においてもかなり参考になる意見をいただいたと思っております。施設である以上束ねる要素が必要となる、それが、基本構想にも記載されておりますが「図書館を核として」と謳っておりますので、図書館がどのような事業内容によってほかの機能を束ねていくのか、この後の議論に生かしていき、次回以降の事務局の素案としても考えていきたいと思っております。

2番目も重要な視点をいただいております。「複合施設のメリットをどう生かしていくのか、各施設がどう連携していくかを検討する必要がある」ということでございます。当然5つの機能がそれぞれ違うベクトルで動くということでもありませんし、複合されたからメリットということを追求していかないと、融合というか複合化のメリットがないようであるとこの事業は非常に困難なものになると考えております。今後、どう連携させていくのか、みなさまに期待感を持って見ていただけるようにどうしていくかなのかということが重要となってまいります。こちら第4章以降の議論に非常に参考になる意見をいただいたと思っております。

そのほか、具体的なことについて3番目4番目展示のこと、郷土に関すること、宇奈月館に関することについてもご意見をいただいておりますが、ここについても第4章以降で検討していくこととなります。

続いて子育て支援機能ですが、小さいお子さんをお持ちのお母さんがワークショップメンバーにいらっしゃいまして、このような機能が必要なのではないかと具体的な発言をいただいております。このなかで1から5まで意見をいただいているわけですが、複合施設というところで、一時預かりの機能ですとか、子育て支援センターは現在の利用対象者はお母さま方とよちよち歩きのお子さんまでが対象ですが成長すると上のお子さんが遊んだり、走り回ったりするようになるのでその環境をどうすれば良いのかというのが、ここで言われていることでもあります。またそれに伴いまして、飲食スペースも必要ではないのかと問題提起としていただいております。

子どもは成長に伴っていろんなニーズが出てきます。それをこの施設だけでできるのか、周辺の他の施設と連携するのか含めて事業内容を検討していく必要がありますが、やはり既存の施設をどう活かしていくかが重要な視点であります。こちらについても、4章以降検討していく課題とさせていただきます。

続いて生涯学習の機能についてです。年齢が多岐にわたるのが生涯学習ですが、そのなかで1～3番までいろいろなニーズがあります。静かに活動される方とアクティブに活動される方、または大きな音が出る活動をされる方もおります。そうしたニーズをどう調整していくのか、わけていくのか、施設のなかでは共有空間を設けるということがあります。3番ですが、そこでの適切なマナーやルールをどう明確にしていくか。どこまで声を出していいのか静かにしなければいけないのか具体的に事業として決めていく必要があるとの問題提起をいただいております。

最後の4番目になりますが、黒部市においては地区のコミュニティの事業、具体的には三日市自治振興会の機能が公民館と一緒にあります。この部分の機能どのようにして維持していくのかという問題提起をいただいております。

続きまして3ページ目の市民活動機能であります。ワークショップではいろいろな市民団体の方が活動されるということで、そのニーズにどのように対応していくのかということで、ご意見をいただいております。市民活動ということで、全市民的な活動をしている団

体とイメージしております。市民活動はいろいろなものがありますが、いろいろなニーズを満たせる施設が必要という意見をいただいております。これについては、何十年先まで施設を使いますので、その時代にあった使い方やニーズにこたえていけるキャパシティの確保が望ましいというご意見もいただいております。

市民活動の実務的な視点からのご意見もいただいております。3番目のボランティア活動を支える背景ですが、これは配食などをされている活動の方ですが、そういった活動を支える環境は確保する必要があるのではないかとのご意見、言また、いろいろな機能、ときには色々な団体が同時に活動する場合もあると思われそうですが、4、5番目の意見として搬入口などがスムーズに行える導線が求められるという意見もいただいております。

ビジネス支援機能です。調整方針について前回提示したのから若干変更しております。まず、一番上の行の真ん中に「個々の活躍」を「市民の活躍」に変更しております。「学生のうちから」と文章が始まっておりますので、若い世代だけを対象としている印象がありましたが、市民全体に対しての事業であることを示すために「市民」と置きかえています。

2行目で「市民参画のもと」としていたが「関係機関との連携」とさせていただいています。ビジネスということだと、個人よりも関係機関だろうということから変更しております。

続いて「就活・起業」を包括して「就業」と変更しております。

最後に「巣立ちと成長」です。前は「巣立ち」だけでしたが、「巣立ちと成長」と変更しております。ビジネス支援は以上4箇所を修正しております。

ワークショップではこちらの変更のもとになった議論もありました。「就活・起業」については、起業に限定するのではなく、現在の最大の課題でもある『事業承継』もあるのではないかと指摘がありました。しかし「事業継承」とするとそちらに特化してしまう印象を与えるため、どちらも含むものとして「就業」としております。

4番目として、ビジネス支援には資格支援という実践的なものがあつた方がいいのではないかとのご意見もありました。

5番目ですが、学生のうちから大人になってからの生きる力やマナーがあつてもよいのではないかと議論がありました。

続いて、他の機関との連携ということでございます。ワークショップの議論では、子育てでも出ておりましたが、他機能との連携ということで一時預かりをしている団体との連携をしていったほうがよいのではないかと、2番目として保育所や学校とのかかわりが必要ではないかとのご意見がありました。

3番目は、前提となる議論ですが、そもそもいろんな活動をしている団体があるが、それらがどういう団体なのか市民に知られていないので、そのような情報の共有が必要ではないかという議論がありました。

4番目以降は具体的なもので、交流センターのなかで多様な社会体験や発表の場を提供できないかというご意見をいただいております。本日初めて策定委員会に提案させていただくものです。他機関との連携、組織間連携支援ということで、この事業に入れさせていただきます。市役所やコラーレなど他の組織と機能分担し、施設のすみわけ、情報の共有を図っていくという提案させていただくものであります。

最後に、4ページ目商店街との連携であります。こちらも本日初めて提案させていただくものです。中心市街地活性化関連のものとなります。ワークショップのご意見では、面的な広がりがある商店街をどう活性化させていくかについてご意見をいただきました。

3番目ですが、市民交流センターとの連携ということで、商店街でお試し販売をすると

いう連携の可能性はないかという具体的な提案をいただいております。集客を前提とした商店街の活性化の議論であります。4番目ですが、交流センターに来たお客様をどう回遊させていくかという仕組み作りが重要という意見がございました。こちらについては、まちなぎわいをつくっていく必要がありますが、これは公共施設ひとつで実現できるものではなく、周りの商店街との連携や活性化と一緒にやっていく必要があるとの事業方針になっております。

中心市街地の活性化方針として2つかかげております。「黒部市立地適正化計画」をふまえて、鉄道・バスの公共交通ネットワークの構築や、居住・誘導をはかるということがあります。市民交流センター建設計画につきまして、「社会資本総合整備計画」にも位置付けられております。ここでは市街地の活性化や公共交通も謳っております。そういった他の計画と連携し進めていくということで書かせていただいております。

シニア世代の経験、こちらは人の動きを表現しております。シニア世代の経験・知識を生かした若年層への支援・育成、新たな価値と地域力の相互拠点となり、若年層は経験し、人々が躍動することで、活気ある中心市街地の再興をはかるということでございます。こちらの方も事業方針に記載させていただいております。

今回ワークショップでいただいた内容につきましては、第4章以降の事業計画を進める上で重要な視点であります。

こうした具体的な提案を受けまして、次回の第4章の事業計画の具体的内容を詰めるにあたっては、ワークショップの参加者のみなさま、委員のみなさまと、また議論を深めていきたいと思っております。

以上、資料4-1から4-3までワークショップの議論を交えながらご説明いたしましたが、この後、委員の皆様よりご意見をいただき、修正すべき点があれば修正を加え、次回の第3回委員会で確認をさせていただきたいと考えております。

○委員長丁寧な説明、ありがとうございました。「管理運営計画」第1章、第2章の部分と、第3章今の議論を踏まえての修正方針の説明をいただきました。この部分についてご意見・ご質問等ありますでしょうか。

○A委員すいません。サードプレイスですがこの説明の中で家でも学校でも会社でもないと否定で始まるのは肯定的にとらえられないので、もっと別の説明の仕方があればと思いました。家や学校と対抗して第3の場所をつくるのではないので、家や学校あるいは会社に行く、別の場所という意味だと思うので。「でもない」という表現は、僕は好きではない。

○委員長“サードプレイス”について何か意見はございますでしょうか。“サードプレイス”について意見を出して言っていただいた方がよろしいですよ。気になるところとか、この表現はというところはお意見を賜りたいと思いますがいかがでしょうか。

○H委員資料4-3にある“わたしのサードプレイス”その後のサブテーマはなくても良いのが私の意見でありまして、①から③までサードプレイスの意味合い、説明を書いているので、サードプレイスという言葉これから浸透させていくと考えでもいいのではないかと。

○G委員先行例としてスターバックスで使われているので、これから浸透していくと感じなくもない。横文字としては使いやすい。ファースト、セカンド、サード、これは金銀銅ではないが、サードなのならば柔らかな感じがしてよい、交流の場としてのイメージがもてるのではないかと思いました。日本語化の検討ということで、2番目あたりは冒険的で若い人の意見だと思いましたが、『私の居場所』では普通かなと思いましたが。“あなたの居場所”とこちらからいう感じでもよいかも思います。“ほのぼのプレイス”とか考えておりました。ヨコ文字は分からない方ですがサードプレイスという言葉があるんだと素直に受け入れています。2回目です。慣れてきました。

○I委員「～」以下がサブタイトルだと思いますが、このように、サードプレイスを補足するような文章が書いてあったらいいと思います。石川委員に言われた否定でないものであれば“学校や会社とは違う第三の居場所”という変換もありかなと思いました。最近よくカタカナが多すぎてぴんとこない言葉と違って“サードプレイス”はぎりぎり理解できるかと思いました。これを浸透させよう、橋爪委員がおっしゃられたように2回目からなじむようにするためにはこのようなサブタイトルが小さい文字でもいいのでサードプレイスという言葉と一緒に書いてあったらいいのではないかと思います。

○J委員いずれ慣れていくというのであれば“サードプレイス”はすごくよいと思います。ワークショップの議論も受けて、意外になじんでくる気もするので、これから通う市民の方もなじむので、このままでよいと思います。

○委員長この施設はサードプレイスというコンセプトでもありますし目指す姿でもありますので、この文言を使っていく点において表現としましても、これ以上の説明が無いくらい説明をしてしまったと思いました。“サードプレイス”という言葉に抵抗感がないのであれば、このまま進んでいって、本質の意味でもサードプレイスを目指していくんだ、実現できるような施設にしていくセンターにしていくという考えであれば、この方向で進められると思いますが、いかがでしょうか。

○K委員（堀内國春）①②③の内容は、身近な場所を否定したあとに出てくるので、前の部分にこれを入れないといけないということなのであれば、そのような言葉が必要かもしれないが、少しくエスチョンを感じる。

○副委員長K委員の意見に賛成です。言い訳ではなく積極性をうたうべきではないかと思っています。細かい①②③はもっと端的にすればよいのでは。“サード”は野球でいえばホットポジションで、長嶋は三番バッターでサードを守っていた。そのような積極性、アグレッシブな場所だとうたえれば良いと思っている。事務局として基本コンセプトにこれを提案された背景はどこかで必要だと思います。行政の場ではあまり使われていないので、どこでうまれてきた言葉かわかりませんが、言葉だけでなく、“サードプレイス”という場がどういうかたちで展開されていくのかという情報はほしいと思います。

○委員長それでは河田委員、長谷川委員いかがでしょうか。

○F委員カタカナが最初に来るのはなじみがないと今でも思っています。しかし、事務局の案は一定の理解はできるので、“サードプレイス”で行くのであればそれでよい。ただ否定的な言葉の注釈はよろしくないだろうと思います。新しい市民交流センターをつくる最初の入り口の段階で、こんな難しい議論をいつまでもしているわけには行けないとも思います。市民交流センターを作るわくわく感が“サードプレイス”で引っかかっているのは気になっているので、積極性というか、期待感か持てるようなサブタイトルがあれば方がよい気がします。無理やり訳して「第3の居場所」とするよりはわくわくできるようなサブタイトルがあったほうがよいと思います。

○E委員“サードプレイス”ということで、職場に帰って若い人たちに聞きました。40代の方は知っているよと、若い人たちはすぐに耳に入ってくるのだなと思いました。これから建ちあがる施設ならいいのではないかと。注釈でサブタイトルがあるから分かりやすい。きつく聞こえる場合もあるかもしれない、否定的かもしれないけれど、インパクトはあると思います。サブタイトルがあるからなおさら“サードプレイス”という言葉の意味が分かるというのが、私たちの職場での話し合いでした。

○委員長サブタイトルありかなしかというご意見や、やはり少しひっかかるというご意見もあります。委員会はここでとどまるわけにはいかない。しかし、事務局としてもいろいろと検討して提案してくださっているので、委員会として意思統一しながら進めていけれ

ばと思いますが、いかがでしょうか。

○K委員カタカナはなかなかイメージがわかりません。名前が覚えられない。副委員長が言われたように、どうしてもこの言葉を使いたいならば、積極性のイメージを最初にもっていけば、ある程度の方にも納得していただけるのではないかと思います。そういう意味で、このサードプレイスのイメージを出すのはなかなか難しいです。なんとか①②③の期待感を表す言葉がないものかなと。そうかといって備考欄に書いてあるものに日本語訳でピタッとくるものがあるかというクエスチョンですけど。

○委員長全体像が包括できる言葉が見つからなかったのがこうなったというご説明が事務局からありました。最大限のご説明をいただいとは思いますが、いまのご意見をいただいた上で、修正や微調整できる部分があれば、次回にご提案いただくということによろしいでしょうか。

○事務局ご意見をいただきありがとうございます。私ども話し合ったなかでも、気づかない点、そうだと思う点をお聞きしたので、サブタイトルなど表現の仕方をもう少し考えさせていただきたいと思っております。次回までに考えたなかのものをご提案できればと思いますが、どうでしょうか。

○委員長コンセプトや方向性についてもご異論はありませんので、表現の仕方、示し方で、工夫ができそうであればご提案いただきければと思います。

○K委員事務局の方が非常に良いことを言われたと思う。このタイトルの後ろにサブタイトルを入れればイメージが変わってくるかもしれません。サブタイトルを考慮していただくのもひとつの方法ではないかと思います。

○委員長ありとあらゆる世代が利用する施設なので、あらゆる世代の人がわかりやすくするといいいですね。

○K委員高齢者も対象者に入っておりますので。

○委員長最初は私も社会学者の言葉だと思っていましたが、それだけではない部分を黒部市はお持ちだということがだんだんと分かってきました。言葉は受け取り方が変わるので、事務局にもう少し努力をお願いできたらと思います。

それでは“サードプレイス以外の部分で何かありましたら、ご意見をいただければと思います。いかがでしょうか。子育てはいかがでしょう。

○E委員ワークショップの議論内容を職場で話し合ってきました。議論のなかで、図書館の機能や飲食スペースがあればいいということがありました。飲食スペースは1階の部分で設けられる、図書館は横の方に児童図書館という感じになるので、機能的にはそれでいいのかなと思います。現在の支援センターで行っている相談事業は、引き続きしていきたい。今の相談室の現状と同じあり方で、個室ではなくてフロアの中にスムーズに入れる相談室があればよいと思います。託児、一時預かりについてですが、現在ご利用いただいているのは、「親子で」交流をしていただく場、相談をいただく場、講座や教室に参加していただく場、子育ての情報を得る場、地域活動をする場としてです。「親子で」ということになっているので、託児は今の現在の人数ではすべてを受けがたい状況にあります。みなさんに想像していただきたいのですが、ママがトイレに行きたい、現施設ではトイレは廊下を経てあるが、赤ちゃんを預かると赤ちゃんが泣く。職員1人が抱っこしたり、遊ばせたりということになります。他の親御さんたちにも「なんで泣いているの」と不安な場面にもなる。もし託児、一時預かりをしようということであれば人員が欲しい。また泣いちゃう赤ちゃんのためのお部屋が必要になってきます。他のお友達に迷惑にならないように託児できる部屋が必要という話をしてきました。人工芝についてですが、現施設では子ども達は足を鍛えるということ、土踏まずを鍛えるということではだしで歩いたり、はい

はい、よちよちしています。芝生はいかがなものかなと思います。芝生ということであれば宮野山や総合公園など実際の芝生で遊んでいただけたらよいのではないのでしょうか。

○委員長具体的なことは次回になるかと思いますが、調整方針の子育てをアシストの部分でこういうところではワークショップの意見を踏まえながら子育てしやすい知恵の拠点としてアシストするとして出していくというとりまとめ方で大丈夫でしょうか。これ以外にも、何かありますでしょうか。

○E委員具体的なことしか、話をしてこなかったです。

○委員長次回が具体的な話になりますのでそこでご意見をいただければと思います。他には何かございますでしょうか。

○K委員富山市新図書館は子ども支援センターがあり、そのなかには子どもの本も置いている。それで大変好評だったので、滑川の図書館をつくるときに保育所と図書館の職員が一体となって子ども支援センターをやって大変好評だった。また、既存の施設として、昨年入善町立図書館の空き部屋を利用して子ども支援センターをつくったところ、利用者に変好評であると聞いている。そういう点で私は図書館と子ども支援センターはいろいろな意味で連携協力する機能が十分あると考えています。ですので、子ども支援センターとの連携を次回で具体的に進めていっていただきたいと思います。

○委員長今の点で、事務局で何か答えられることはありますでしょうか。

○事務局子育て支援につきましては基本構想のなかで「読書スペースと育児サロンなどの一体的な活用により親子で安心して使える機能が求められる」と書かれています。ワークショップでも意見がありましたが、図書館と子育て支援と一緒にいうということについては基本構想の中でもキッズコーナーや子育て支援センターが同じフロアにあるということとなっております。一時預かり等については、ワークショップ等でも意見をいただいておりますので、第4章以降のなかで検討していく内容と考えております。

○副委員長ワークショップのなかでも出てましたが、図書館を核とする施設とはどういうことなのか、これは大変大きなテーマだと思います。5つの機能と書いていますが、並列といいますか、図書館機能というだけでは済まない気がします。図書館をコアとしてとしてこれからの議論の中でどういう図書館を目指すのかということもありますが、一事業計画の中の一事業内容ではない、図書館が他の機能一子育て支援、生涯学習、市民活動とどういにかわりを持っていくのかということ、表示するときに並列ではないということがわかるようにすることが必要なのではないのでしょうか。

○G委員人生100年の観点から人の一生の生き方を模索する機能がすべて交流センターに盛り込まれてあると思っています。人生を山と見て登山期と下山期が一つの生涯をなすと考えます。子どもがワークショップなどで頂上を必死で目指そうとする若者がやがて成長して社会人となる、その後50代60代以降からは豊かに下山が始まって年を取るっていいことだとか考え出します。今までを振り返っては、忘れていた花がこんなにきれいだったと図鑑をひらく余裕が持てる時期が来ます。安全で穏やかに楽しみ下山するときにきて一その人間の物語、プロセスが核となって交流センターの中に組み込まれてあると思いたいです。全体的にいろんなことが。ひとりの人間は一冊の本であるといわれますし、図書館を見れば、その土地と人が分かるとも言われます。図書館は核となり得ると全体像として漠然として思うのです。図書館は人間形成の核となると考えています。

○委員長図書館は多機能になってきており、いままでの図書館とは違います。新しい可能性を導き出していき、市民の書齋であることは図書館の原点ですが、活用、可能性は限りなく色々なことに使われるということが全国でも出てきています。図書館機能が並列的ということですが、これだけではない多様な部分があると思いますが、(資料4-1の)①から

⑤については良いまとめ方になっていると思いますがいかがでしょうか。核となるのかではなく、核となるように交流センターがどのように黒部市民あらゆる世代にいろいろな形でどうしたら利用していただけるか、これから将来についての可能性を議論していく形にしていくという委員会です。方向性は間違っていないので、いまの橋爪委員の意見は前提とさせていただきたいと思います。上田委員からの指摘は、最低限度議論しなければいけない点なので、引き続き、議論していきたいと思いますが、事務局から分け方とか並列的というご意見についてお答えがあればお願いいたします。

○事務局（検討項目については）項目立て並列で記載されており事務的にこうなっておりますが、ご指摘のとおり、図書館という核の機能については、他の機能を束ねるので、踏み込んだ部分が求められてくると思います。後ほどご説明いたしますが、6月3日に視察で塩尻さんへ行くわけですが、機能融合-新しい価値をどう求めていくかという次の課題が第4章の事業計画になります。事務的に5機能を並列に書いておりますが、事業内容を検討していただくに当たり、流動的なこと図書館を核とした機能融合という点は議論の中に当然出てくると思われまますので、ここには単に事務的に整理してあるだけとご理解いただければと思います。このあと機能融合、図書館を核とした事業計画については第4章で提示させていただきたいと思います。

○K委員いままでのような図書館サービスを主にしているのは、なぜ図書館は核なんだという心配があります。これからの時代は図書館の職員対利用者、著者と個人（読者）がコミュニケーションをしていきます。しかし黒部は市民交流センターという名がついている以上、幼児から高齢者までの公民館、子育て支援センターの利用者と交流するためにわたしは一番大事なことは利用者相互で情報を交換し合うということになると思います。たとえば読んだ本の感想を掲示して、本を紹介するなどのコミュニケーションを伴わないと、図書館が複合施設5施設のなかで核にならないのではないかなと思います。いい本があれば、読書リレーをする、感想文を掲示する場所を設けるとか、いい本を紹介しあうという行事をしていく中で、交流センターの本当の基本的な目的の達成に近づくのではないのでしょうか。生涯学習施設も、いろんな行事を行う際、図書館と協力して目録の発行、自主目録の発行などいろんな点で連携協力していければ図書館はこの施設で十分核になれる素養を持っていると思います。

○委員長ありがとうございます。今回の施設には期待も多く、みなさんの気持ちが込められていることが伝わってまいりました。その他に、特にということがありますでしょうか。

○A委員ビジネスについて理解しづらいです。もう少し簡潔になりませんか。ビジネスの経営支援、就業支援、転職、事業のスキルアップ、起業などありますが、市内2000くらい事業所あると思いますが、事業所が元気ではないと黒部市も元気になれるのではないのでしょうか。図書館とつながって事業所を支援する。そのような機能を素直に書いてもらえるとうれしいです。

○事務局ビジネス支援については、ワークショップや庁内検討会でも一番議論が出ております。今回のビジネス支援の位置づけは基本構想にのっとって入っております。この部分につきましては、子育て支援の部分でも出ておりますが、他の機関との連携、すみわけについての問題が中にはあります。子育て支援も一時預かりや児童センターの機能までは交流センターの中になかなか置けないという現実もありますので、どのように連携するかということになります。ビジネスも起業、事業承継等行っている団体から中野委員さんに出させていただいておりますが、その商工会議所の事業、また市の商工サイドでやっている事業、実際の実務として商業振興やっておられる団体が事業をやっておられる中でのビジネス支援はどこの部分を担っていけばいいのかという議論は庁内でも出ております。その部分に

については第4章以降で提示してまいりますが、ある程度、他の組織とのすみわけ的なところが必要になります。また限られた事業費のなかでどこに焦点をあてるかという点もありますので、この委員会のなかで議論をさせていただければと思っております。これまでのところ包括的には書いてありますが、このセンターでできることは事業費や施設の大きさをみながらある程度絞っていくことも考えております。

○H委員基本コンセプトのなかでは図書館機能と連携したビジネスに関する情報提供を行う機能と書いてあります。資料4-3、現状・課題のところにも「市民ニーズや企業活動の動向をみながらビジネス支援」と書いてあります。一方調整方針をみると、学生に対しての方針にしかみえないのかなと感じております。経営支援起業等も含めた事業者であるとか、ワークショップの議論にありましたが、働いている世代や資格試験に向けた人への事業方針が書いてあると良いかと思いました。具体的な内容としてはいろいろ出てくると思いますが、今の状態は学生向けだけの方針に見えてしまうので、方針として簡潔に入れていただければと思います。

○委員長次回に向けて、ビジネスについて、調整方針の部分にわかりやすく修正、加筆していただければと思います。議論のなかでいただいたキーワードをもとに調整いただけたらと思います。それでは、次に進めさせていただいてよろしいでしょうか。

【追加の発言がないことを確認】

.....

協議事項（2）管理運営計画（提案事項）について

○委員長最後に「（2）その他について」、事務局から説明をお願いします。

○事務局資料5をご覧ください。以前にもお渡ししておりますが、今後のスケジュール予定となっております。

次回第3回委員会は7月10日火曜日開催となりますが、第3回以降は会場が市役所での開催となります。市役所2階、201、202会議となりますので、お間違いのないようお願いいたします。開催時間は15時からとなっておりますが、万が一変更ある場合は事前に調整させていただきます。

また、次回委員会の前に、6月3日には先進事例視察を行います。内容については資料6をご覧ください。

6月3日日曜日に機能融合施設の先進事例として、塩尻市市民交流センターを視察いたします。市役所に7時20分に集合いただき、市のバスで移動いたします。途中、休憩を挟みまして、塩尻へ移動、現地視察は11時から15時を予定しております。

当日は、現地で先ほどご説明いたしました当委員会のアドバイザーに就任いただいた松本大学の伊東教授に概要説明、講演をいただく予定となっております。

なお、昼食時は自由行動としております。持参いただいたお弁当等を館内でいただくスペースも確保しておりますし、近くにはコンビニもあるそうです。そのほか自由時間に周辺商店街へ足を伸ばされ、商店街を散策しながら昼食をとられることも可能です。また伊東先生は私たちの研修部屋で昼食をとられるそうなので、お昼をいただきながら先生と歓談することも可能かもしれません。

日曜日朝早くから終日の予定であり、皆様お忙しいところ大変恐縮でございますが、複合施設の立ち上げからたずさわられた元塩尻市職員でもある伊東教授の機能融合等のお話を直接聞くことができる貴重な機会でもありますのでご都合つく方はぜひご参加いただ

ればと思います。またワークショップメンバーも参加する予定ですので、お互いの意見交換等ができる貴重な機会にもなるかと思ひます。

出席について、本日お配りしました出欠連絡票を5/22（火）までにFAXもしくは返信用封筒にて私どもへご提出ください。どうぞよろしくお願ひいたします。

○委員長今の説明で質問はありますでしょうか。

○B委員名前も場所もですが、利用者層も保育所の子どもから、学生、お年寄りから中間層まで、欲張っていろいろと交流センターで抱えるのは大変だと思ひます。あまり欲張らない腹八分目にしたほうがよいのではないかと心配です。

○M委員“サードプレイス”ということで話を進めさせていただいていますが、このコンセプトが具体的なものとしてどのような形になるのはこれからだと思ひます。みなさんの意見を聞いて、目指すべきサードプレイスを実現できるだろうと思ひております。よろしくお願ひいたします。

○L委員活発なご意見をいただき、ありがとうございます。特にコンセプトについて今日いただいた意見をもういちど事務局を交えて検討し、次回にのぞみたいと思ひております。

○委員長それでは以上でまとめさせていただいてよろしいでしょうか。

【追加の発言がないことを確認】

.....

閉会

○委員長今後について視察の話もありました。今回は様々な代表の立場に委員の方にご参加いただいております。そうした立場にたつて、具体的なご意見をいただければと思ひております。また、将来について、次世代に向けて、どのような機能があればいいかについても、ご意見いただければと考えております。

意見が出つくしたようですので、ここで、議長の役目を終えさせていただきます。委員各位には、議事の進行にご協力をいただきありがとうございました。

○事務局以上をもちまして、第2回（仮称）くろべ市民交流センター管理運営計画策定委員会を閉会とさせていただきます。

委員の皆様には、長時間にわたりご審議賜りありがとうございました。

閉 会 15時45分